

病防第67号  
平成27年7月30日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察注意報第2号を公表しましたので、送付します。

## 注 意 報

平成27年度病害虫発生予察注意報第2号

農作物名 早植え水稻  
病害虫名 いもち病（穂いもち）

- 1 発生地域 中山間地
- 2 発生時期 出穂期以降
- 3 発生程度 多

### 4 注意報発表の根拠

- (1) 7月中旬に実施した中山間地の早植え水稻（5月植え）における調査の発生状況は、平均発病株率30.8%（平成12.1%）、発病度9.9（平成3.7）と平年に比べ高かった（図1）。
- (2) また、7月22日に実施した調査では、葉いもちの発生を26ほ場中21ほ場で確認した。ほ場内での発生状況は、平均発病株率は41.6%、発病度19.0で、葉いもちが多発生した2012年、2014年の平均値（発病株率40.0%、発病度13.2）と同程度からやや高かった（図1、表1）。
- (3) 早植え水稻の生育は、6～7月の日照時間が平年の約60%と少なく軟弱徒長気味であり、発病しやすい状態となっている。
- (4) 病害虫防除員からの発生状況報告によると、一部地域で例年より葉いもちの発生が多くなっている。
- (5) 福岡管区气象台が7月23日に発表した向こう1ヶ月の気象予報によると、平年に比べ気温は低く、降水量は多い予想であり、特に中山間地は夕立や霧が発生しやすいため、いもち病の発生に好適となりやすい。

### 5 防除対策

- 穂いもちは発生後の防除が困難である。感染源である葉いもちの発生状況を確認し、発生が多い場合は、予防防除を行う。
- (1) 粉剤や水和剤は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。
  - (2) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期以降に降雨が続く場合は、穂揃い期の7～10日後に追加防除を行う。
  - (3) QoI 剤を含有する育苗箱剤を使用したほ場で発生が認められた場合は、他系統の薬剤を選び防除する。
  - (4) 農薬を使用する際は、安全使用に努める。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

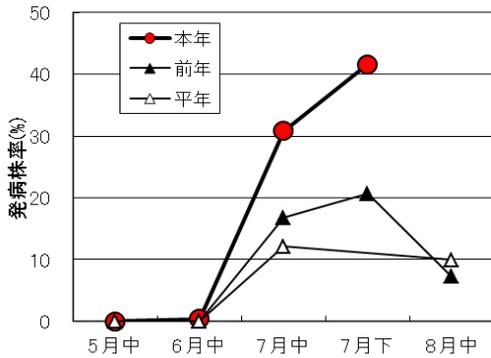


図1 葉いもち発病株率の推移

表1 いもち病の発生状況(7月下旬)

地域	地点	発病株率 (%)	発病度	発病株率
鹿本	山鹿市1	46	18.7	43.0
	山鹿市2	40	13.3	
阿蘇	阿蘇市1	90	30.7	89.5
	阿蘇市2	90	34.0	
	南小国町1	36	13.3	
	南小国町2	100	45.3	
	南阿蘇村1	100	50.0	
	南阿蘇村2	100	64.7	
	南阿蘇村3	100	44.0	
上益城	南阿蘇村4	100	67.3	4.7
	御船町1	4	1.3	
	御船町2	24	8.0	
	甲佐町1	0	0.0	
	甲佐町2	0	0.0	
八代	山都町1	0	0.0	55.0
	山都町2	0	0.0	
八代	八代市1	100	52.7	55.0
	八代市2	10	3.3	
芦北	菅北町1	2	0.7	27.0
	菅北町2	52	17.3	
球磨	錦1	4	1.3	14.7
	錦2	0	0.0	
	あさぎり1	16	5.3	
	あさぎり2	28	9.3	
	あさぎり3	28	9.3	
	あさぎり4	12	4.0	
<b>平均</b>		<b>41.6</b>	<b>19.00</b>	<b>(発生ほ場率:80.8%)</b>
<b>多発年</b>	<b>2012年</b>	<b>59.2</b>	<b>19.2</b>	<b>100%</b>
	<b>2014年</b>	<b>20.7</b>	<b>7.1</b>	<b>68.2%</b>



写真1 穂いもちの症状



写真2 葉いもちの症状

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係)  
 担当：山口 TEL 096-248-6490